産業政策監調査研究報告　第３号

農業体験農園シンポジウムの開催状況

～古館農業体験農園の活動実績報告～

令和２年 12 月

紫波町産業部　産業政策監

目　　次

はじめに

1　農業体験農園シンポジウム開催内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　話題提供
（1）紫波町の農業体験農園の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
紫波町　産業政策監　農村政策フェロー　小川勝弘

（2）古館農業体験農園の設置状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
古館農業体験農園代表、美味野菜栽培士　　及川和男

（3）産直組合と農業体験農園・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
古館産直組合　組合長、古館農業体験農園副代表
紫波町産直連絡協議会副会長　畠山秀兒

（4）野業体験農園と医療介護の連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
一般社団法人みんなの健康らぼ、医師　杉山賢明

（5）農業体験農園に参加して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
盛岡市　高杉奈緒

3　意見交換の主な内容・・38

おわりに・・39

は　じ　め　に

紫波町中央部平坦地域の古館地区では、令和２年度から古館農業体験農園を設置しています。

古館産直センターでは、組合員の高齢化により、近年販売額が減少してきており、いかにして出荷量を確保していくかが課題となっていました。

一方、古館ニュータウンができた頃に移住してきた住民は、定年退職を迎える時期を迎え、毎年多くの定年退職者が発生し、今後とも退職者の増加が見込まれています。

定年退職者の中には、余暇を活用して、家族への安全安心な野菜を食べさせたいというニーズもあります。また子育て世代では、親子で野菜作りを体験してみたいというニーズもあります。

このため、古館産直センターで「古館農業体験農園」を設置し、野菜作りを通じた定年退職者の生きがい対策や食育活動に貢献するとともに、将来的には、産直への出荷者の確保につなげることを目指しています。

紫波町の農業の担い手は、高齢化の進行と農業後継者の不足により、今後、急激に減少していくと見込まれます。離農する農家の増加にともない、今後、多量の農地が利用されなくなることが懸念されています。

農業体験農園は、面積的には小さいものの、農業者が高齢化して利用されなくなった農地を有効活用する方法だと考えられます。また消費者と農業をつなぐ有効な手段と考えられます。

古館産直組合が始めた古館農業体験農園は、町内で初めて取り組まれている事例ですので、まずは、皆さんに農業体験農園とは、どんなものかを知っていただきたいと思います。

古館農業体験農園の取組は、いまだ試行的な段階ですが、今年度、実施してみて、多くの可能性があることが分かりました。今後、紫波町内で農業体験農園の取組が広がることを期待しています。

1　農業体験農園シンポジウムの開催内容

○目　的

令和２年度から町内で初めて古館農業体験農園が設置されています。本農園は、当初、組合員の高齢化により販売額が減少している古館産直組合の販売額を増やすことを目的に始めました。

実際、農園を設置したところ町内外のシニアの方、子育て世代の方、医療関係者の方々等いろんな皆さんに参加していただき、農業体験農園には野菜生産にとどまらない多面的な機能があることが分かりました。

そこで、町内に農業体験農園の取組を増やすために、古館農業体験農園の活動状況を紹介するとともに、農園にかかわった方々の意見と会場の皆さんの意見を聞きながら、今後の農業体験農園のあり方について議論を深めます。

○開催日時　令和２年 11 月 15 日（日）13：30～15：30

○開催場所　紫波町情報交流館　オガール２階　大スタジオ
住所：岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目３番地３
電話番号：019-672-2918

○開催内容と日程

内　　容	時　　間	報　告　者　等
1.開　会	13:30	全体進行　農政課長　浦田文伸
2.主催者あいさつ	13:30～13:35	紫波町産業部長　阿部薫之
3.話題提供		座長　小川勝弘
①紫波町の農業体験農園の取組	13:35～13:50	農村政策フェロー　小川勝弘
②古館農業体験農園の設置状況	13:50～14:00	古館農業体験農園　代表　及川和男
③産直組合と農業体験農園	14:00～14:10	古館産直組合　組合長　畠山秀兒
④農業体験農園と医療介護の連携	14:10～14:20	みんなの健康らぼ　杉山賢明
⑤農業体験農園に参加して	14:20～14:30	盛岡市　高杉奈緒
4.休憩	14:30～14:40	
5.意見交換	14:40～15:30	座長　小川勝弘
6.閉会	15:30	

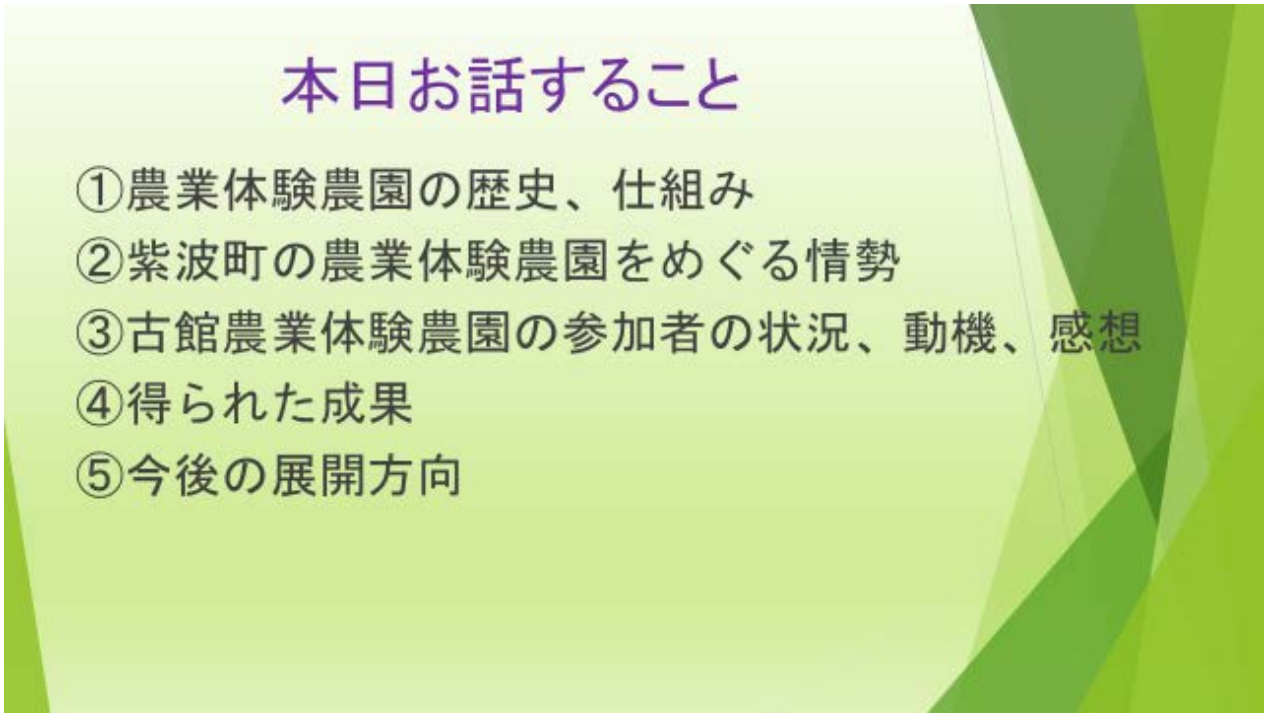
○参集範囲

農業体験農園に興味がある消費者、農業体験農園に関心のある認定農業者、町内産直組合みんなの健康ラボ、医療・福祉・介護関係者等

2　話題提供

（1）「紫波町の農業体験農園の取組」

紫波町産業部　産業政策監　農村政策フェロー　小川勝弘



①農業体験農園の歴史、仕組み

- 農園利用方式による農業体験農園は、
- 神奈川県で1991年に設置された「農園モデル」
- それを発展させた1992年の「栽培収穫体験ファーム」が発祥とされています。
- その後、1996年に東京都練馬区で「緑と農の体験塾」（加藤義松）が設置され、
- 農業体験農園が本格的に普及しはじめました。

- 平成2017年時点での農業体験農園の設置状況は以下の通りです。
- 東京都：練馬区・調布市など91農園、関東：茨城県・埼玉県など25農園
- 九州：福岡県を中心に13農園、その他：京都府・和歌山県など12農園
- 計140農園
- 東京、関東、福岡県等大都市で取り組まれている

民間企業による農業体験農園と同様の取組

企業名	概要	
株式会社マイファーム	エリア	関東・東海・関西・中国・九州
	農園数	100か所
	利用料	1区画 15㎡、月額 3000円～6000円
	特徴	「自産自消」＝「自分たちでつくり自分たちで食べてみる」を理念に掲げ、マイファーム体験農園」を展開しています。 農園に「自産自消アドバイザー」を置いて野菜栽培の指導を行っています。
株式会社アグリメディア	エリア	首都圏・関西
	農園数	99以上
	利用料	1区画 6～13㎡、月額 8000円～10000円
	特徴	農家の高齢化、担い手不足で管理できなくなった遊休農地を、だれでも気軽に農業と触れることができる「シェア畑」として再生しています。利用者数、約2万5千人。 農園に「菜園アドバイザー」を置いて野菜栽培の指導を行っています。

1. 農業体験農園の仕組み

【農業体験農園とは】

・農業体験農園に使用する資材

⇒農作業に必要な種苗、農具、肥料等は農家が全て準備を行う。

出典：藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

農業体験農園とは　4

1. 農業体験農園の仕組み

【農業体験農園とは】

・農業体験農園の基本・講習会の風景

⇒作業を行う品目ごとに丁寧に説明。

出典：藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

農業体験農園とは　5

1. 農業体験農園の仕組み

【農業体験農園とは】

・農園利用者間の交流会

⇒交流会は「人と人を繋ぐ架け橋」。
新たなコミュニティが生まれる。
農園の管理も円滑に。

出典；藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

農業体験農園とは　6

1. 農業体験農園の仕組み

【農業体験農園の一年】

・園主の指導によって安全・安心な野菜が収穫できる。
・園主・利用者との交流によって、新しいコミュニティが生まれる。

出典；藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

農業体験農園の一年　7

1. 農業体験農園の仕組み

【市民農園と農業体験農園】

・市民農園と農業体験農園の仕組みの違い

	市民農園		農業体験農園
	特定農地貸付法	市民農園整備促進法	
開設主体	地方公共団体・農業者・JA・NPOなど		主に農業者
開設方法	貸付規程を作成し、農業委員会へ申請	整備運営計画を作成し、市町村へ申請	法的手続きは不要
開設場所	特に指定なし	市街化区域または市町村が指定した市民農園区域	特に指定なし
耕作者	農園利用者		農地所有者
生産緑地買取申請	生産緑地の指定から30年経過によるもの以外申請できない		申請できる
相続税の納税猶予	基本的には適用されない		適用実績あり
作付計画	農園利用者が自由に作成		農園主が作成
資材準備	利用者が準備		農園主が準備
栽培指導	基本的になし（年数回の場合もある）		あり
収穫物	農園利用者に帰属		園主に帰属するが、契約により利用者に帰属

資料：飯口・大江（2008）、全国農業協同組合中央会（2016）を基に報告者加除修正。

⇒農業体験農園は農業理解の促進、新たなコミュニティの醸成、担い手確保への可能性など多様な意義を有していると考えられている。

出典；藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

農園と農業体験農園　8

1. 農業体験農園の仕組み

【東京都練馬区における農園事業】

	区民農園	市民農園	農業体験農園
仕組	農家から借りた農地を区が整備し、区民に貸し出す（「市民農園」は既存の区民農園と区別するため命名）		農家が開設、管理運営を行う 農地貸借は発生しない
農地区分	宅地化農地	生産緑地	生産緑地
開設年	1973年～	1992年～	1996年～
農園数	18農園	5農園	17農園
総区画数	1,426区画	246区画	1,813区画
区画面積	約15㎡	約30㎡ 車いす利用者優先区画約20㎡	約30㎡
利用期間	原則として1年11ヵ月		約1年、最大更新5年可能
使用料	400円／1ヵ月	1,600円／1ヵ月 車いす利用者優先区画1,100円／1ヵ月	練馬区民38,000円／1年 練馬区民以外50,000円／1年
指導者	なし		農園主による指導あり
利用資格	①練馬区に住所を有する（世帯単位）、または過半数が練馬区に住所を有する方で構成されている団体 ②区が定める規則を守って農園利用できる方		20歳以上の方（グループ・複数家族による利用可）

資料：藤田（2017）、練馬区（2017b）、大江（2009）を基に報告者加除修正。

東京都練馬区における農業体験農園

地域との共生と安定した収入、労働の効率化を目指す市民参加型農業

⇒農業者・練馬区・東京都農業会議・JA東京あおばによって、1996年より展開。

①練馬区農業体験農園園主会を組織（東京都・全国においても組織化）

②地元JAの農業祭において農園区画の立毛品評会を実施

⇒個々の農業経営の発展のみならず、地域農業の発展を目指す取組。

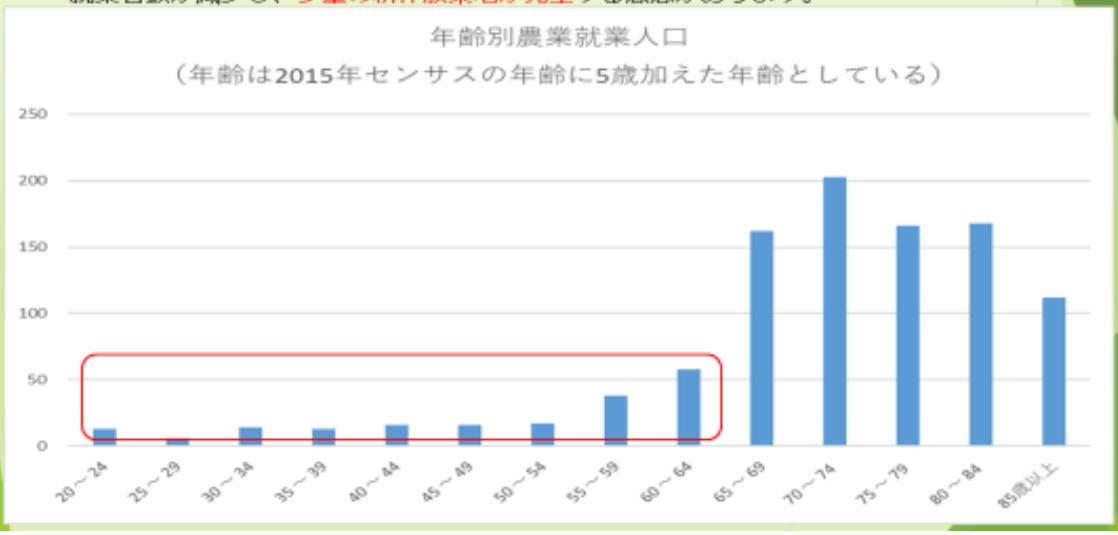
出典；藤井　至「都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題」　藤井　至
食農総合研究所研究成果　第9号　　和歌山大学食農総合研究所　2018年12月

東京都練馬区における農園事業　11

②紫波町の農業体験農園をめぐる情勢

（1）農業従事者の高齢化

紫波町の農業就業者は、65歳以上が大部分を占め70～74歳が最も多くなっています。
64歳以下の農業就業者は極端に少なくなっているため、今後高齢農業者がリタイヤしていくと一気に農業就業者数が減少し、多量の耕作放棄地が発生する懸念があります。



（2）非農家の増加

先行事例から農業体験農園の参加者は30ｋｍ圏内とされています。
紫波町の農業体験農園は、盛岡市～花巻市のエリアからの参加者が想定できます。
盛岡市～花巻市のエリア（盛岡市、矢巾町、紫波町、花巻市）の就業者に占める農業の比率は、紫波町が15%と最も高く盛岡市が3%と最も低くなっています。
盛岡市～花巻市の市町を合計した農業比率は6%となっています。
紫波町の昼夜人口比率は81.6%で県内最低、県内で最もベットタウン化が進んでいます。

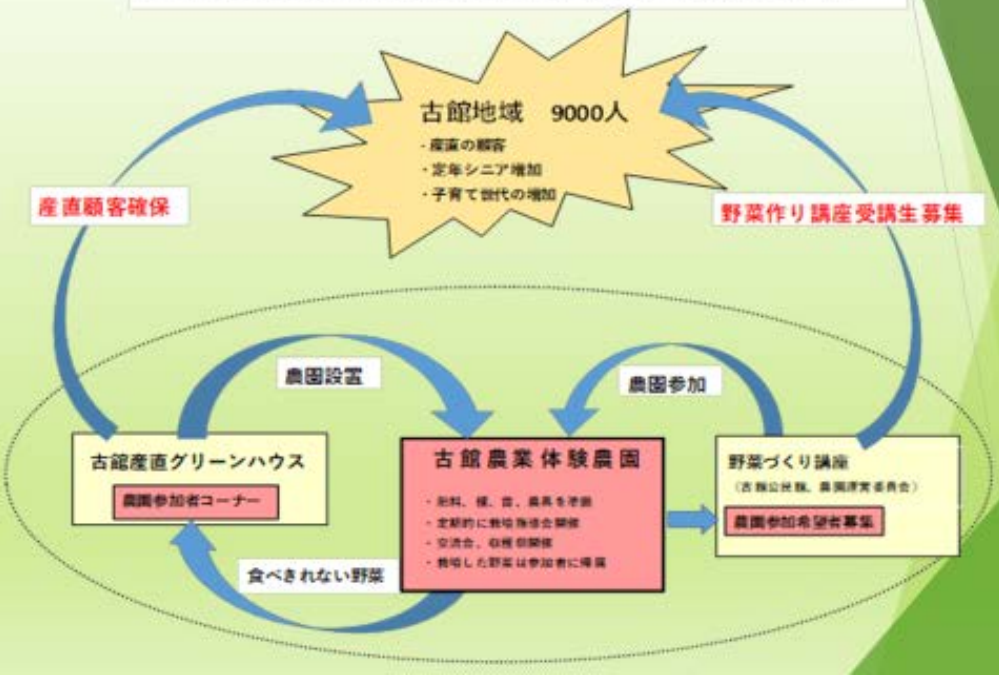
盛岡市～花巻市エリアの産業別就業者数（平成27年国勢調査）

市町村名	15歳以上就業者数（人）	産業大分類別就業者数			昼夜間人口比率（%）
		農業，林業（人）	うち農業（人）	農業比率（%）	
盛岡市	143,723	4,775	4,544	3%	105.7
矢巾町	13,922	1,237	1,227	9%	104.0
紫波町	17,209	2,520	2,499	15%	81.6
花巻市	49,218	6,002	5,857	12%	96.1
周辺市町計	224,072	14,534	14,127	6%	

盛岡市～花巻市エリアの人口総数は455,625人で、一般世帯数は、183,758世帯です。
このエリアの一般世帯のうち、子どもとの食育を目的に農業体験農園に参加が見込まれると考えられる「夫婦と子供からなる世帯」は、44,037世帯あります。
また、健康、生きがいを目的に農業体験農園に参加が見込まれると考えられる「高齢夫婦世帯」は、18,009世帯で上記と合計すると参加が見込まれる世帯は62,046世帯になります。
盛岡市～花巻市のエリアは、農業従事者が減少し非農家が増加していて農業体験農園が事業化できる可能性が高まってきています。

市町村名	人口	世帯数					
	総数（人）	一般世帯数（世帯）	うち核家族世帯（世帯）	うち夫婦のみの世帯（世帯）	うち夫婦と子供から成る世帯（世帯）	高齢夫婦世帯（世帯）	3世代世帯（世帯）
盛岡市	297,631	129,420	66,640	24,336	30,823	12,431	7,546
矢巾町	27,678	9,874	5,440	1,810	2,779	813	1,232
紫波町	32,614	10,793	6,174	2,019	2,977	1,116	1,931
花巻市	97,702	33,671	16,988	5,946	7,458	3,649	6,161
計	455,625	183,758	95,242	34,111	44,037	18,009	16,870

古館農業体験農園の概念図



③参加者の状況、動機、感想

④得られた成果

（1）野菜作りと農家への理解促進

実際に野菜を作ってみて楽しいということと作業が大変だということが理解され、産直で販売されている野菜に多くの手がかかっていることが分かり、価格が安すぎるという感覚を持つようになった。

（2）食育の推進

子育て世代の親子が野菜作りを体験するために参加し、食育の推進につながった。

（3）遊休農地の有効活用

農園周辺の農家から遊休化している農地を使ってくれるよう要望があり、当初10aの農園面積が直営部門を含めて最終的に約50aに拡大し、遊休農地の有効利用につながった。

（4）交流促進

仙台や札幌から移住してきて知り合いをつくることを目的に参加する方もあり、地域の交流促進につながった。

（5）ウィズコロナの新生活様式での新たな余暇提供

農業体験農園は野外作業で感染の危険が少なく、参加者は畑で充実した余暇を過ごすことができて、感謝された。

（6）農医介護連携

医療関係者（医師、ナース）が、農園に参加したことにより、交流会でコーヒーと健康の話題提供をいただいたり、農園代表者の野菜を医師が関係するグループホームへ直接販売するなど、農医介護の連携が進んだ。

⑤今後の展開方向

（１）農業体験農園と合わせた直営農場の設置

・産直での計画的な生産出荷に貢献（品揃え拡充、端境期解消等）
・新たな商品提案のための栽培実証
・新規就農者のトレーニング

（２）地域内での直接取引拡大

・農園代表者と福祉施設との間で野菜の直接取引を開始。産直の新たな販売先にできないか。BtoB

<生産者のメリット>・市場流通する規格に合わせる必要が無いので生産と出荷調整作業軽減
・小ロットでも取引が可能、・包装資材が不要になり出荷経費軽減

<消費者のメリット>・安全安心な野菜を入手可能、・朝収穫された鮮度のいい野菜を入手可能、
・市場に出回らない珍しい野菜も入手可能

<社会のメリット>・地域で生産消費することで、流通にかかるエネルギー削減、温暖化防止に貢献

（３）ＣＳＡ（Community Supported Agriculture）地域支援型農業との組合せ

生産者と消費者が連携し、前払いによる農産物の契約を通じて相互に支え合う仕組み
生産者と消費者が直接契約し、野菜セットを定期購入、消費者が野菜を引取りに来る
消費者は農作業を手伝ったり、野菜セットの詰め込みを手伝う。

（４）農業体験農園の多面的機能の発揮

農業体験農園は、安全安心な野菜を育てて食べるという機能と併せて以下の多面的な機能を果たしていることから、今後これらの多面的な機能を積極的に発揮する仕組みづくりを進めることが必要

農業体験農園が果たしている多面的な機能

機　能　名	果　た　し　て　い　る　機　能　の　内　容
野菜生産機能	・基本的に無農薬で栽培するので、自分で食べるための安全で安心な野菜を作って食べることができます。
食育機能	・子供と一緒に野菜を作って、野菜の成長を観察できます。 ・子供が自分で作った野菜を食べることによって野菜が好きになります。 ・子供のころに野菜を食べる習慣をつけることにより将来の生活習慣病予防につながります。
健康増進機能	・農作業で体を動かすことで筋力が維持されます。
遊園地機能	・大人が大変だと思う除草作業も子供にとっては、草を引っこ抜くことが遊びになります。 ・大人では気が付かない畑にいるアリ、トンボ、芋虫、カエルを子どもは見つけて捕まえる遊びになります。 ・畑の土を使って泥団子を作ることが遊びになります。
リフレッシュ機能	・仕事を離れた新たな居場所になります。 ・仕事の合間に畑に来て農作業をしてリフレッシュできます。
コミュニティー形成機能	・定期的な栽培講習会や交流会を開催することにより、参加者が知り合いになります。 ・畑に来ると誰かと会話が出来ます。 ・みんなで同じ野菜を作るので、野菜の作り方を教えあったりして会話がはずみます。
世代間交流機能	・リタイヤしたシニアが農業体験農園に参加することにより、農園で孫と一緒に野菜をづくりの作業をしたり野菜を収穫したりして世代間の交流が進みます。

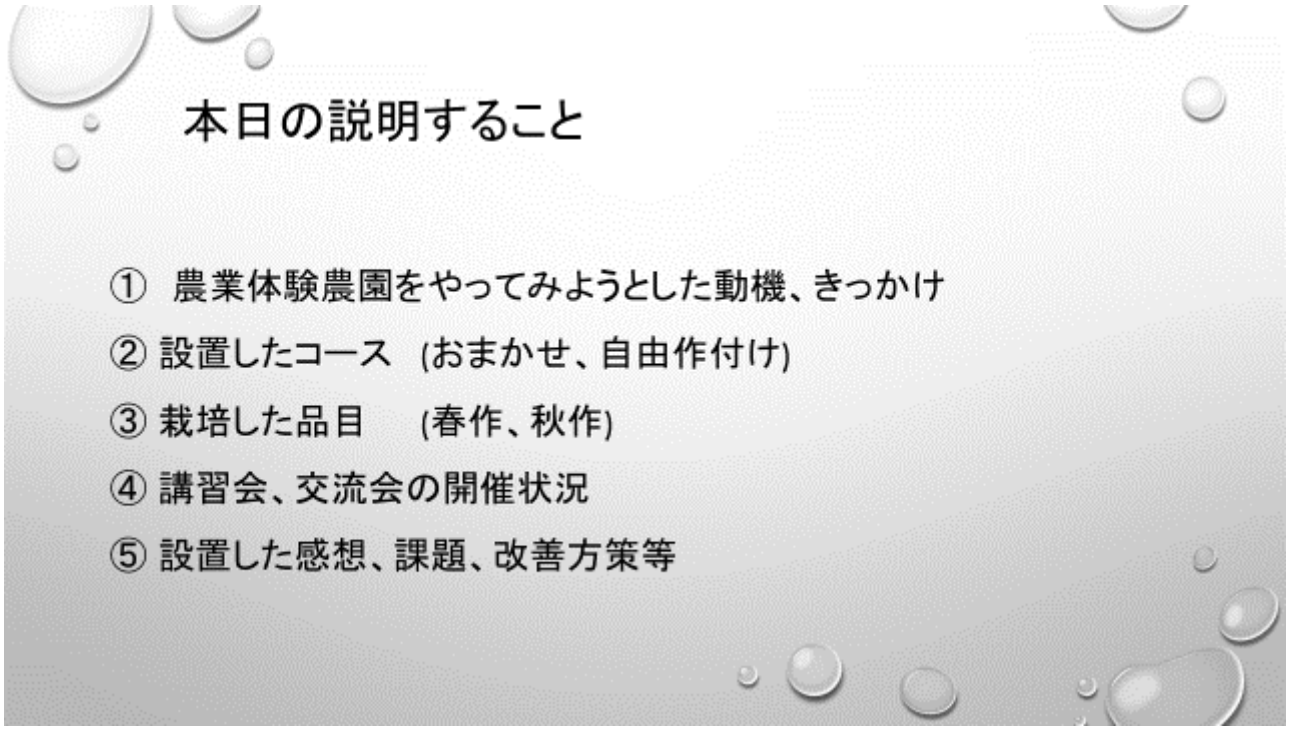
シンポジウムのねらい

- 農業体験農園は大都市を中心に広がってきた。（税金対策の面もあり）
- 紫波町古館農業体験農園は、産直の新たな担い手確保、遊休農地の発生防止からはじまった。
- 当初考えていたシニアに加えて、子育て世代、医療関係者が参加したことにより、農業体験農園の可能性が広がった。
- 盛岡市～花巻市のエリアの就業者の農業比率は6%、紫波町は県内で最もベットタウン化が進んでおり、農業体験農園の需要は、期待できるのではないか。
- 古館農業体験農園は、産直との連携、医療との連携など他に例のない取り組み。

- 今回のシンポジウムでは、関係者で議論を深めて、紫波町なりの農業体験農園の展開方向を考えること。
- 参加者の皆さんからの積極的な発言をお願いします。

（２）「古館農業体験農園の設置状況」

古館農業体験農園代表、美味野菜栽培士　及川和男



① 農業体験農園をやってみようとした動機、きっかけ

- 退職後の楽しみに野菜作りをしようと思っていたこと。
- イタリア野菜の「チコリ」を作ってみたい。
- イタリア野菜、フランス野菜等をたくさん作っていることから、その魅力を分かち合いたいと思っていたこと。
- 外国の野菜の色彩が素晴らしいこと。
- 洋食に使われている野菜が手に入らない、値段が高価であるとのこと。(フランス料理店の話)
- NPO法人「古舘まちづくりの会」の副理事長をしていたとき、この知識を紫波町に広げてその生産地にできないものかな？と思ったこと。
- 近隣の産直の生産者が高齢になり、出荷量が減量となり困っているとの噂が聞こえた。

②設置したコース (おまかせ、自由作付け)

おまかせコース（ 18区画 ）

1区画　約 40㎡　秋作のため15㎡ほど追加した。

主催者が行うこと

肥料、種、苗を準備し栽培講習会を開催する。

参加者が行うこと

各自で区画の栽培管理を行うこと。

（定植、播種、潅水、除草、収穫）

自由作付コース（ 3区画 ）

主催者が行うこと

畑を耕起し、各自の区画を準備する。

参加者が行うこと

各自で肥料、種、苗を購入し栽培管理します。

③ 栽培した品目　(春作、夏作、秋作)

・春作

キャベツ

レタス

シスコ

かぶ　　ブロッコリー　　オクラ(島オクラ)　　外国のレタス類

ジャガイモ

ノーザンルビー

シャドウクイーン

きたあかり

・夏作

ナス　白丸ナス トンダビアンカ

紫ナス PROSPERROSA

マー坊ナス

白菜

イマージュ白菜

オレンジクイーン

紫奏子白菜

・秋作

大根

宮重大長大根

紅くるり大根

江都青長大根

紅心大根

味一番紫大根

④講習会、交流会の開催状況

・古舘農業体験農園参加者説明会 (3/20)

・講習会 (4/26　たい肥散布、畦立て)

・講習会(5/3 葉菜類定植、根菜類播種)

・講習会(5/10果菜類定植)

・講習会(5/24果菜類定植、お茶会)

・お茶会

・講習会(6/14葉菜類収穫時期、果菜類定植)
・講習会(7/12秋作用葉菜類の播種)
・講習会(8/2白菜、レタスの定植)

休憩所の名前の公募
第一位「下の畑でホーホケキョ」杉山先生

第二位 高杉さん

・講習会(8/30 大根播種、交流会)

・交流会(10/4　芋の子会)

⑤ 設置した感想、課題、改善策等

・得られた成果

○ 野菜作りと農家への理解促進

野菜作りの楽しさと作業が大変。産直で売られている商品の価格が安すぎる。

○ 食育の推進

定年退職者の参加を見込んでいたが、子育て世代の親子が野菜作りを体験するために参加した方もいて食育の推進につながった。

○ 遊休農地の有効活用

農園の周辺の農家から利用せずに遊休化している農地を使ってくれるよう要望があり、10㌃の予定が最終的に直営部門を含め50㌃となり、遊休農地の有効活用につながった。

○ 交流促進

仙台、札幌から移住してきて知り合いをつくることを目的に参加する方もあり、地域の交流促進にもつながった。

○ ウイズコロナの新生活様式での新たな余暇提供

農業体験農園は野外作業で感染のリスクが少なく、外出自粛にも該当しないことから利用者は畑で充実した余暇を過ごすことができ、利用者から感謝された。

○ 農医介護連携

医療関係者(医師、ナース)が、農園で一緒に減農薬野菜を作ったことにより、交流会でコーヒーと健康の話題提供をしていただいたり、農園利用者の野菜を医師が関係するグループホームへ直接販売するなど農医介護の連携が進みました。

・運営上の課題と対応策

○ 参加者の募集

認知度が低く、当初の締め切り時点での申し込みは低調だった。

○ 講習会

作業内容を口頭のみで説明をしたために理解しにくった。
作業内容の説明のみで、栽培技術の説明がなかった。
収穫時期が分からなかった。

○ 交流会

交流会の評価が高かったが、事前の計画がなかった。

○ 掲示板

掲示板を設置し、講習会日程や作業内容を掲示する計画であったが、実施できなかった。

○ 区画面積

当社の1区画の面積を40㎡で開始したが、最終的には参加者一人当たり50㎡にしたため、管理に多大の労力を要した。

○ 野菜品種

葉菜、根菜をそれぞれ複数品種を作付したため、同じ種類の野菜が多くなり、消費しきれなかった。

○ 利用料金

令和2年度は資材代として5000円としたが、秋作の種代として1000円追加徴収した。

○ 産直への出荷

食べきれない野菜を産直に出荷する計画だったが、出荷方法を決めるのに時間を要し、出荷に至らなかった。

（３）「産直組合と農業体験農園」

古館農業体験農園副代表、古館産直組合組合長　　畠山秀兒

～リタイア新規個人就農者から～

はじめに

私は、３０歳までは、コンピュータソフト会社でプログラマ、その後、教職で主として中学校技術・家庭科を担当、そして６０歳の定年後は、リタイアし新規個人就農者として、最初は、ラ・フランスの栽培、その後、本産直に加入して5年になります。

なお、６０歳を過ぎてからの就農者ということで、国や県の法令やＪＡでいう「新規就農者」には該当しません。ビニールハウスの融資をＪＡに打診したり、中古のハウスの補助を検討したりした時も、年齢制限に引っかかり、受けられませんでした。

なぜ農業に関心を持ったのか

私が農業を志したのは、まだ４０代教職に就いていたときです。

レイチェル・カーソンの「沈黙の春」、有吉佐和子の「複合汚染」などの啓蒙書はあったものの、昭和のまっただ中、今ほど環境汚染や薬害に等について法令等が徹底されない時代であり、わが子にまともな食品を食べさせたいと願った頃です。

もっとも令和の現代、それが改善されたのかと言われれば、市販の加工食品や外国産牛肉などを日常的に利用している状況では、かえって問題は、増えているし、むしろ摂取量も多くなっているともいえます。

安価だということでファミレス、コンビニ、そしてスーパーの冷凍でも多く使われる中国産野菜の問題もかえって問題を複雑にしています。

引きこもりの原因にも食品添加物の大量の摂取が影響しているのではないかと疑う研究者もいます。

リタイア後の目標

私の４０代の夢は、妻の「家の前の草取りもしない人に農業は無理。」という一言で、太陽に照らされた朝露の如く雲散霧消してしまいました。

しかし、３０年間の教員生活をリタイアして、目指すものは、決まっていまし

た。但し、対象は孫です。
　また、還暦を迎え、今までとは、全く違うことをやりたいとも願っていました。
　しかしながら、やるからにはある程度の品質を狙いたいということもあり、岩手県立農業大学校が開いている「いわて農業入門塾」にも通いました。
　しかし、日常的な農業者との交流をめざし、古館産直組合の門をたたいたわけです。
　産直といっても、最近は仕入れて売るというスーパーと変わらぬような産直もあるので、それは選択肢から外しました。

産直への思いと現実

　期待は、かなえられ、また裏切られたとも言えます。教わることは多くあり、農業者である組合員との交流はたいへん良かった。
　同時に、産直は出来たときとは環境が変わり、経営的に大きな問題を抱えていました。高齢化は当たり前のことですからやむを得ません。問題は後継者不足、いや後継者がいないのです。
　農業だけでは食べていけない、となればやむを得ません。そして、高齢化による組合員の減少、年齢から無理がきかなくなり出荷量が減少し、販売委託の手数料の減少で産直の運営が難しくなってきていた、という訳です。
　「年齢から体力的に無理がきかない。」と、私が組合員になって２年目に理事、４年目に組合長に祭り上げられたのには、こういう事情がありました。

最初の取り組み

　一年目に取り組んだのは、出荷者すなわち組合員をどうやって増やすかということです。売るものがなければ、産直は成り立ちません。しかし、スーパーのように仕入れて販売するのなら、産直の意味は疑問です。
　また、新規の組合員といっても果たして信頼に足る人間なのかという問題もあります。地域協力隊といったメンバーなかにも、これで地域の人々と交流していけるのだろうか、と感じさせられた経験もあります。
　そこで、紫波町産直連絡協議会の高橋事務局長に相談しにあがりました。そのとき、同じような状況を把握していた町産業部、農政課の方々とも相談することができました。
　この時、提案を受けたのが、古館地区は紫波町のなかでも人口が多い、またリタイアした方々もいる。古館公民館で野菜栽培講座を開いたら８０名近くの参加者がいた。この家庭菜園の延長上として販売に参画してもらうのはどうか、というものでした。

例えば、市民農園あるいは「農業体験農園」というべきもの聞き、彼らに「産直サポーター」として野菜供給を支援してもらったら、という訳です。
そこで、昨年度から北上川河川敷の遊休農地を利用させてもらい、試行を始めました。

改革の難しさ

二年目となる今年は、産直としてはレジ要員の削減、定休日等サポーター制度が軌道に乗るまでの暫定的な改革も始めました。
ところが、取り組みが進行するにつれ、大きな誤解があったことに気がつきました。私が組合長に推されたのは、産直を立て直すため、フリーハンドをあたえられたのではなかった、ということです。
今、在籍する産直を立ち上げた時以来の組合員の構成を大きく変えること、すなわち新規参入者を増やすことにあまり乗り気ではなかった。端的に言えば、素人の支援を受けてまで産直を続けていくことへ抵抗、プロ農業者としてのプライドの存在です。
ただ、これがあるから今まで産直を続けられてきたわけです。それに、農村地域での女性の社会参画活動のさきがけでもありました。
「最初は、１０年くらい続けられればいい、と思っていたが２６年もがんばった。」「静かに終焉を迎えさせたい。」ちょっと表現は違うかもしれませんが、こんな気持ちのようなのです。
現在、古館産直組合は、表面的にはこれからも続けたい、やめたいという組合員は拮抗していますが、現実の産直への野菜供給の状況からみれば本音は決まっているように思われます。

目指す産直のありかた

組合員の気持ちは分からないわけではありません。しかし、産直の意義は、食料の自給、安心安全な作物の供給、地産地消即ち地域にお金を回すだけではなく、高齢者の生きがいといったように多様です。
自給には、自分達に殆ど関わり合いのない為替変動とか、輸出国の都合で大きく価格が変動することから、生産の安定という意味もあります。
最近では、バイオエタノールという問題で、輸入飼料の価格が高騰し、国内の畜産や酪農経営に大きな影響を与えました。
野菜といったものまで輸入している国々の市民生活は、このように日常的にいつでも不安定さを伴っています。

また、アメリカ産の成長ホルモンを投与して成長を早めた肉牛の安全性等、これらに関わる巨大企業、組織は国家をも動かす力を持ち、一般消費者の声などごまめの歯ぎしり程度にしか捉えていないように思えます。

しかし、まだ産直ならば生産者と消費者が食料について対話も可能ではないか。消費者が「生産者としての立場を直接的に体験できる農業体験農園」ならば、なおさらです。（ここでいう「農業体験農園」とは、最近行われるようになってきた営利を主たるねらいとする「農業体験農園」とは、多少ニュアンスが異なります。）

そして、一旦立ち上げたならば、利用者もあり、単に自己都合だけではやめられない社会的存在でもあることは忘れてはなりません。例えば、本産直利用者にはスーパーの次々と変わる支払方式についていけない高齢者もいます。

これからの展望

任せられた以上、なんとか本産直を維持していきたい。

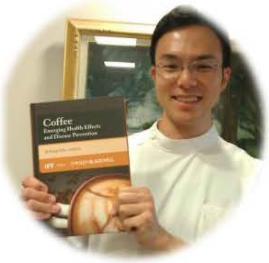
ただし、産直自身も変わらなければ生き残りは難しい。よって、続けたいという意思のある組合員の総意を大事にしながらも、産直サポーターの土台となる農業体験農園、その発展上にある産直直営農場による計画的な安定した野菜の供給、更には新規就農者との連携は必須と考えています。

古館産直の発展を摸索しつつ、「産直の抱える現状と課題」の発表を終わります。

（4）「農業体験農園と医療介護の連携」

一般社団法人みんなの健康らぼ、医師　　杉山賢明

杉山賢明　米国ニュージャージ生まれ．東京出身．田舎が好き．



【研究者】

- 社会疫学研究
- コーヒー疫学

【現役テニスプレイヤ】

- 全日本ジュニア14歳以下ダブルス優勝
- 日本ベテランテニスランク最高３位

【医師】

- 東北大学医学部卒業
- 沖縄県で５年間研修
- 島で外来診療
- 田舎で在宅診療

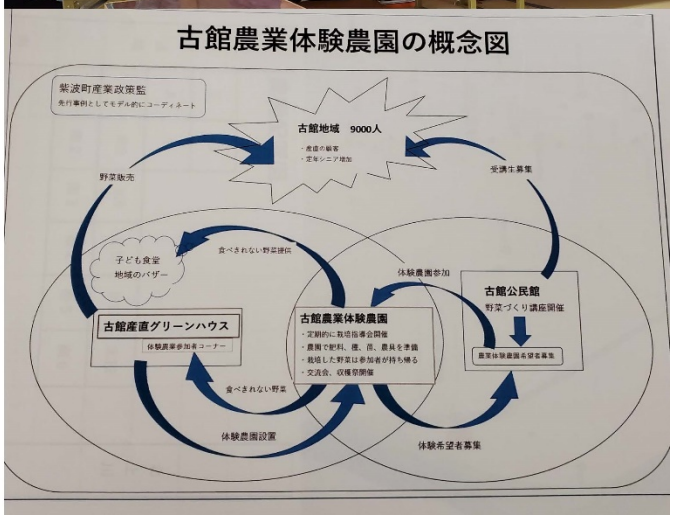
地域の医療課題が関心分野。１年前に仙台から紫波町に移住。

農業体験農園に参加した動機

- ルーツは農家
- 沖縄在住の頃に農業
- １年前に紫波町に移住
- 地域活動に参加したい
- 地域おこし協力隊に誘われた

紫波ネット2020年11月号
https://shiwa.saksak.jp/ebook/2011/HTML5/pc.html#/page/4

農業体験農園の第1回会合 3/20



➔多才な幹部との**親近感**
➔コミュニティ理念に**共感**
➔**サード・プレイス**への期待

"サード・プレイス"

コミュニティにおいて自宅や職場とは隔離された **心地のよい**第3の居場所

Wikipediaより https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BB%E3%83%AB%E3%83%9D%E3%82%BB%E3%83%BD%E3%83%AC%E3%82%A4%E3%82%B9

小昼会

5/24

サード・プレイスの特徴

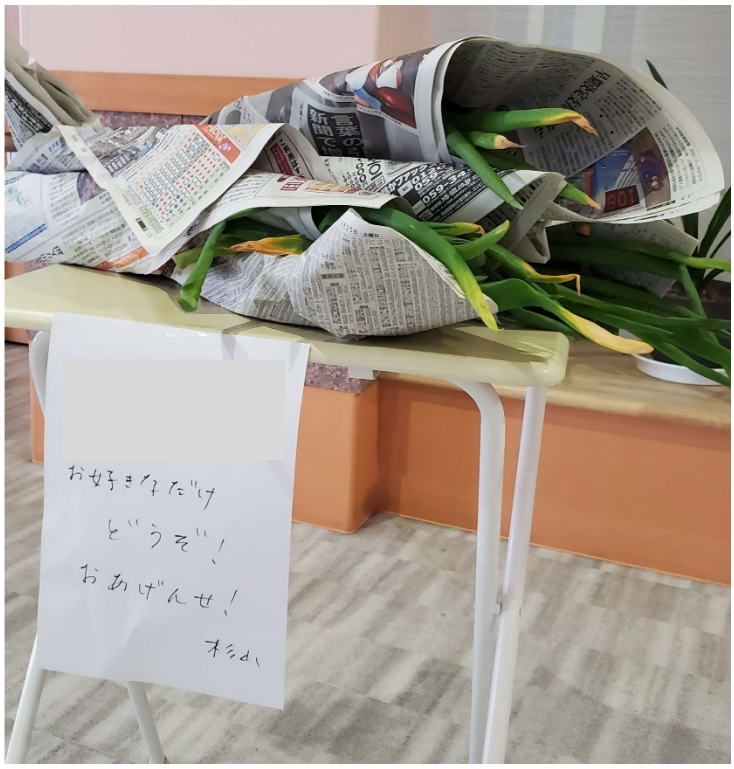
アメリカの社会学者Ray Oldenburg
『The Great Good Place』

- 無料あるいは安い
- 食事や飲料が提供されている
- アクセスがしやすい、歩いていけるような場所
- 習慣的に集まってくる
- フレンドリーで心地良い
- 古い友人も新しい友人も見つかるようなところ

4/27

おすそ分けから生まれた

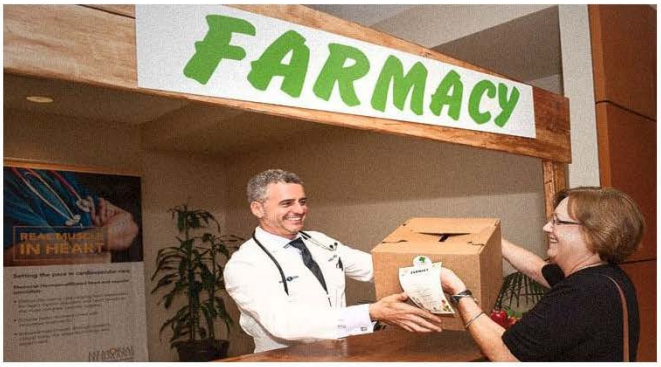
野菜の処方
”Farmacy”



米国のFarmacy

Meet The Doctor Who Prescribes Fruit And Vegetables Instead Of Drugs!

by: Amanda Froelich
Posted on June 18, 2015



https://www.trueactivist.com/meet-the-doctor-who-prescribes-fruit-and-vegetables-instead-of-drugs/

毎週水曜日、テキサス州ヒューストン市内のヒューストン市ハーマン記念病院のロビー内で午前10時から午後2時までの間、このスタンドは開いています。

デイヴィス医師から野菜・果物の処方を受けた後、患者がファーマシーに行くと、**通常価格が25ドルのローフリー・オーガニック生協が提供する新鮮でオーガニックな食べ物**が、**10ドル値引きされた価格**で買うことができるようになります。

ハーマン記念**基金**は快く**スタンド建設の資金を提供**したばかりではなく、患者さんがより健康的に食べることができるようにするために10ドルの割引のための資金も提供してくださっています。

https://www.el-aura.com/wake-up-japan20160813/

農園に関するレクチャー　5/24

- 出荷先が安定しない
- 人手が少ない
- パッケージ化のためのコスト
- 輸送コスト

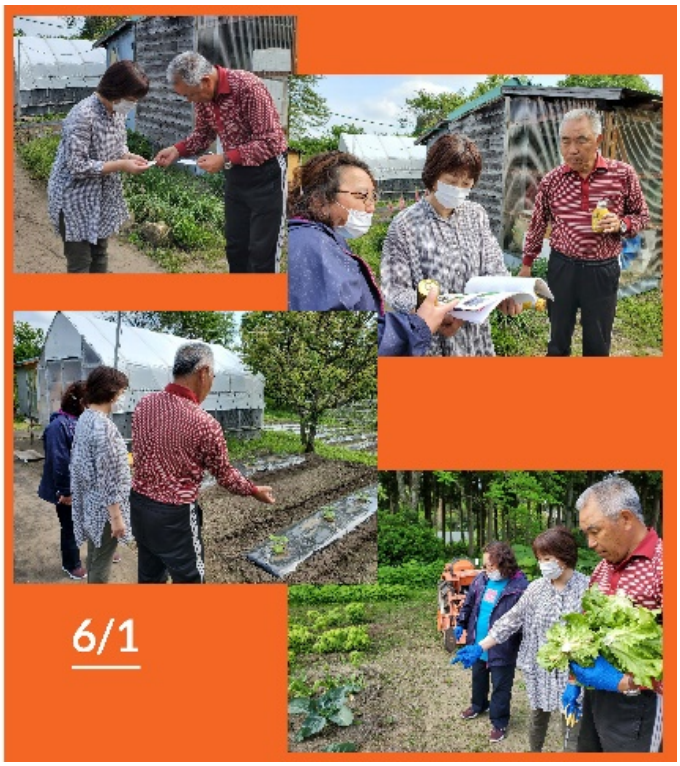
高齢者のグループホームに相談

入居者20人の食事を毎日3食提供している

- ◆ 野菜の値上がり
- ◆ ほぼ毎日スーパーマーケットに買い出しすためのスタッフの労力

↓

農業×医療×介護の連携へ



農業×医療×介護の連携に向けた野菜の『処方』の仕組み

注文・収穫

食べたい分だけ、採れる分だけ
パッケージなし
市場価格より低コストで

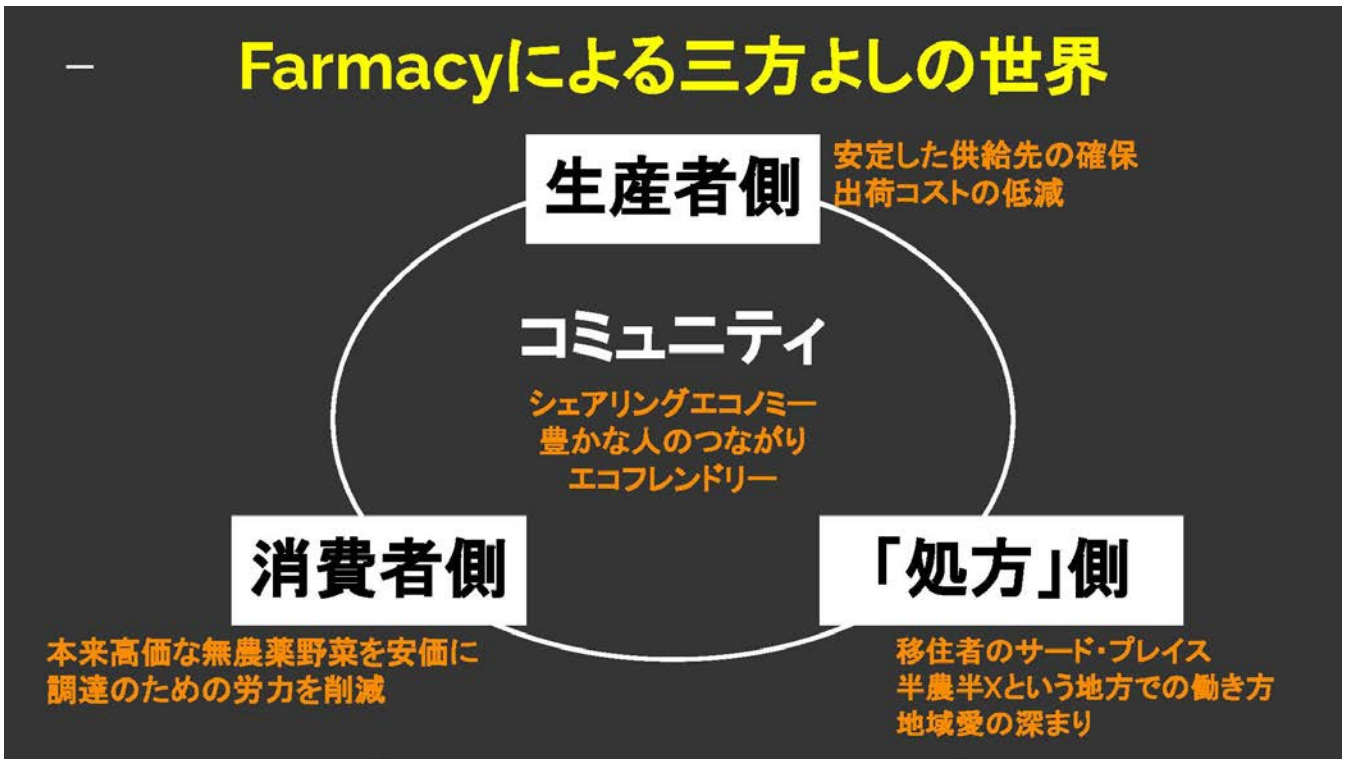
運搬＝処方

医師が出勤ついでに受け取り運搬
医師は農業指導が受けられる
運搬代として野菜をいただく

受け取り・代金支払

職場で受け取り
代金を支払う
好きな金額で注文できる

小さく始めて
出荷量が増加
野菜の生育とともに
喜びも
広がる


Farmacyによる三方よしの世界
生産者側
安定した供給先の確保
出荷コストの低減
コミュニティ
シェアリングエコノミー
豊かな人のつながり
エコフレンドリー
消費者側
本来高価な無農薬野菜を安価に
調達のための労力を削減
「処方」側
移住者のサード・プレイス
半農半Xという地方での働き方
地域愛の深まり

多面的・多次元の楽しさを味える
個人レベル
● つくる楽しさ
● おいしさを味わう楽しさ
● 料理する楽しさ
集団レベル
● 人とつくる楽しさ
● あげる（提供する）・もらう楽しさ
農業体験農園の幹部の皆様、ありがとうございました 来年も参加します

（５）「古館農業体験農園に参加して」

盛岡市　高杉奈緒

活動に参加して

・プロのご指導を受けながら野菜作りが経験できる

畝の立て方
種の撒き方
苗の定植方法
水やりのタイミング
害虫の対処法
収穫時期と方法　etc…

・適度な身体活動

鍬仕事
水やり
草取り
収穫…

・機械での作業は事務局の皆さんが…
（ありがとうございます(人"▽｀)☆）

農作業初心者の私には
辛すぎず、楽過ぎず
ちょうどよい作業内容でした

・畑の周囲は自然がいっぱい

← あけびの花
天ぷらにして頂きました

他にもアシタバやウルイも…

お野菜の収穫の前に
山菜を収穫して楽しみました

子供たちは虫やカエルなどの生き物との触れ合いを楽しんでいました

プラスαの楽しみもありました

・みんなで一緒に作業する

野菜作りをきっかけに会話が生まれる

ふらっと立ち寄ると
誰かが作業をしている

自分のペースを守りつつ
人とつながっている
安心感

・安心安全（無農薬）
・新鮮

多品種
オシャレな野菜

・とにかく美味しいお野菜
・食育

食卓が華やかに

・楽しさのお裾分け

食べきれない程収穫できたお野菜は
家族や友人にお裾分け

とても喜ばれました(^▽^)

※楽しみとしての農業なので
うまくいかなかくても無問題！

・時に畑がレジャー施設に

元気なお野菜たちを眺めながら
野外ランチを楽しみました♪

・交流の場

お茶会

ご結婚のお祝い

芋煮会

古舘農業体験農園の魅力

- **温かい人とのつながり**（参加者はいい人ばかり）
  特に今年は、コロナで疲れた心が癒されました
  （３密の心配もなし）

- **元気が湧いてくる**
  畑に来るとエネルギーが湧いてくる

- **美味しいお野菜に囲まれる生活**
  野菜摂取量は確実に増加しています

生活の中の楽しみになっています(^▽^)

私にとって
古舘農業体験農園は…

心と体の健康に
つながっている

良いことしかない

のどかな風景

遊具や小屋

3　意見交換の主な内容

●職業人生を引退したので農業をやってみたいと思い野菜を作ってみたかった。

指導を受けてうまく作れたのもあったが、収穫時期がよくわからなかった。

引退するとコミュニケーションが無くなる。コミュニケーションのための交流会があればいい。情報提供にＳＮＳも使うべき。

●いままで野菜を作ってみたがうまくいかなかった。ラジオを聴いて盛岡市から参加した。

今年は、指導をうけてうまく作れた。キャベツでは美味しいものがあった。

芋煮会に夫婦で参加したが楽しかった。芋煮会参加後、夫が畑に来るようになり、自分で大根を抜くように変化した。

●公民館で古館農業体験農園のチラシを見て盛岡から参加した。

人は齢を取ると土に帰る、野菜は自分で育つということを感じた。個々の野菜の収穫期を知りたい。

●めずらしい野菜を作ったが収穫時期と食べ方が分からない。

回答：種類別に収穫期や食べ方の資料を作って掲示板に入れておく。

クックパットで検索すれば情報収集できる。

●市民農園と農業体験農園の違いが分かった。スマート自治体、農園の先駆け、リタイアのシニアが出てくればいい。地域コミュニティーの形成に役立つ。

●赤石地区には、若い人がたくさん移住してきている。空いた畑に野菜を作って子供たちに収穫させている。子供達とお母さんが野菜を作ることはいいことだ。

●農業後継者がいないので遊休農地対策としての可能性はある。ただ、認定農業者は忙しいので時間をさけるかが課題。

近所では、リタイアしたシニアが孫と野菜を作っている。

廃棄する野菜も多いはず。自家消費のみでは余る。

あ　わ　り　に

古館農業体験農園は、当初組合員が高齢化し出荷量と販売額が減少している古館産直組合の販売額を維持拡大するために、古館産直サポート農園として発案されたものです。

農園の募集時には、農業体験農園という仕組みが理解されていないために参加者の確保に苦労しましたが、掘り起こしに努めた結果、紫波町にとどまらず盛岡市からの参加者もありました。

また、医療関係者などの多様な方々の参加があったことから、農業体験農園は、野菜生産にとどまらない多面的な機能を果たすことも認められました。

古館農業体験農園は、今年が設置初年度で、試行錯誤的な部分もありますので、今年の反省を踏まえ、より効率的な運営が出来る仕組みを作っていくことが期待されます。

古館農業体験農園の具体的な活動経過や得られた成果と紫波町の農業体験農園の参加者として見込まれる盛岡市市民の農業体験農園に対する意向について、産業政策監調査研究報告第４号「古館農業体験農園の取組状況と盛岡市市民の農業体験農園の意向」として取りまとめています。

本報告書と第４号を合わせてご覧いただき、農業体験農園への理解や実際に農業体験農園の設置運営に役立てていただければ幸いです。

今後、消費者と生産者が共にコミュニティーを作っていく農業体験農園の取組が広く町内でも広がることを期待します。

産業政策監調査研究報告　第３号

農業体験農園シンポジウムの開催状況

執　筆　　農村政策フェロー　小川勝弘

2020 年 12 月発行

発　行　　岩手県紫波町　産業部　産業政策監

連絡先　　〒028-3392　岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前二丁目３番地１
電話 019-672-2111（代表）

紫波町ホームページ　https://www.town.shiwa.iwate.jp/

本調査研究報告書の無断転用・使用はできません。本調査研究報告書の内容を使用する場合は、事前の許可が必要です。